

■ かかりつけ医認知症対応力向上研修(Web 講習会) 開催報告

令和4年度かかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修)では Zoomウェビナーを使用し、前半、後半 Part に分けて各3回ずつ(計6回) 動画配信を行い、医師216名、多職種25名が参加されました。

前半 Part では「基本知識」「診療における実践」を北山病院 院長の澤田 親男 氏にご講演いただき、後半 Part では「かかりつけ医の役割」をはやし神経内科 院長の林 理之 氏に、「地域・生活における実践」を京都府立医科大学大学院 医学研究科 精神機能病態学 精神医学教室 教授 成本 迅 氏にご講演いただきました。

受講後アンケートでは、「よくある認知症に関する表面的な知識ではなく、実践の場で遭遇する諸問題を取り上げて解説されており、実用的であった。」「多職種連携に関して非常に分かりやすくまとまっていた。」との感想をいただきました。



京都府立医科大学大学院
医学研究科
精神機能病態学
精神医学教室 教授
成本 迅 氏



北山病院 院長
澤田 親男 氏

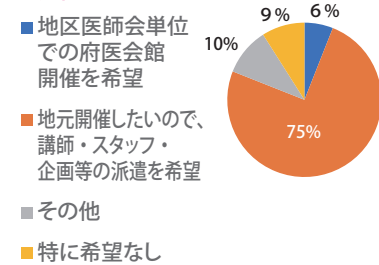


はやし神経内科 院長
林 理之 氏

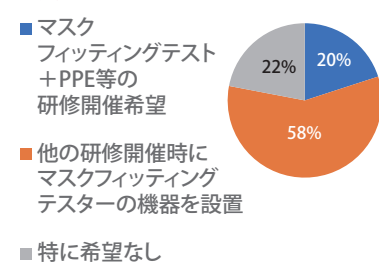
在宅医療・地域包括ケアサポートセンターだより

令和4年度第3回京都在宅医療戦略会議のなかで、地区医師会や連携支援センターの参加者に、府医への要望等を調査するための簡単なアンケートを実施しました。その結果は下記の通りで、今後のサポートセンターが目指すべき方向を示しています。

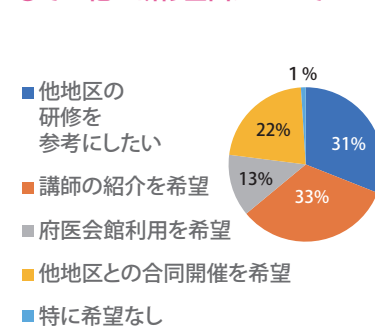
①府医多職種研修(ヘルパーが訪問時に患者の急変に直面したときの対応)について



②府医が購入を検討しているマスクフィッティングテスターの活用方法について



③その他の研修企画について



- ①府医企画で好評を頂いた多職種連携研修を地元地区が開催する場合の方法をアンケートしました。同じ企画をそのままそっくり、地区医師会が府医会館を使って開催を希望は6%にとどまり、地元開催のため講師・スタッフ・企画等派遣希望が75%を占めました。多職種がより多く集まるためにも地元開催を希望されたのかもしれませんが、また、一度地元開催すると次の研修にもつながるのでより発展的だと思います。
- ②自分のマスク装着法で正しく感染予防できているかを調べるマスクフィッティングテスターを府医が購入する予定です。このテスターを、PPEを含め感染予防の研修会として企画を希望する方は20%にとどまり、他の研修会会場に常置して気軽に利用したいとの意見が58%でした。その方がより多くの方々に利用いただけるかもしれません。
- ③研修企画について様々なご希望を伺いました。府医会館利用希望は13%で、他地区の研修を参考にしながら(31%)講師を紹介してもらい(33%)、地元で、場合によっては他地区との合同開催を(31%)希望とのご意見でした。



京都府医師会 在宅医療・地域包括ケア対策 担当
角水 正道 理事

以上から、今後は各地区が地元で思うように研修を開催するためのサポートに力を入れたいと思いました。もちろん従来の研修も「かかりつけ医機能向上」を意識して今まで以上に現場のニーズにあった企画を検討中です。

当サポートセンターはこれからも、「かかりつけ医 機能向上」「現場の多職種連携推進」をキーワードに、知恵を絞って活動して参りますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

在宅医療に関係する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news

Vol.46

2023年3月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館 3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Menu

- ◆ 各研修会 開催報告(P.1, P.3, P.4) ◆ 地域包括ケア 府民公開講座 開催報告(P.2)
- ◆ 在宅医療・地域包括ケアサポートセンターだより(P.4)

第3回 京都在宅医療塾「実践編」(参集型開催) 開催報告

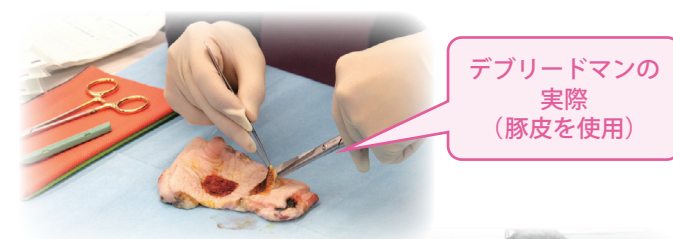
令和5年1月26日(木)、まつだ在宅クリニック 医師 村上 啓司 氏と、同クリニック 皮膚・排泄ケア認定看護師 渡邊 朋子 氏を講師に迎え「褥瘡診療の腕を上げよう!! デブリードマンの実際 ポケットエコーで褥瘡の深さをみよう」と題した研修会を基礎講義と実習を交えて開催し、医師20名にご参加いただきました。



まつだ在宅クリニック
医師
村上 啓司 氏



同クリニック
皮膚・排泄ケア
認定看護師
渡邊 朋子 氏



デブリードマンの
実際
(豚皮を使用)



デブリードマン後の
皮膚保護の方法
(褥瘡モデルを使用)

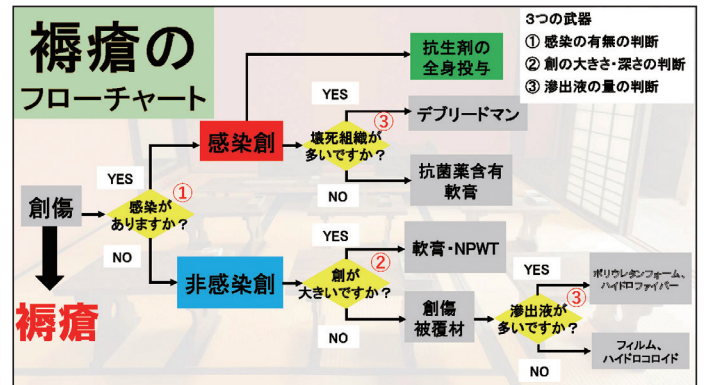


ポケットエコー
(Vscan) で褥瘡
の深さを診る
(褥瘡モデルを
使用)

Wound hygieneとは

- ・日本語で「創傷衛生」と訳される近年の創傷治療戦略の名称
- ・バイオフィーム管理、特にバイオフィーム再形成阻害戦略が含まれる
- ・Wound hygieneのコンセプトは難治性創傷のすべてにバイオフィームが含まれていることを前提にしている
- ・コンセンサスドキュメントの中では「慢性創傷」という言葉の使用を代わりに「難治性創傷」という言葉を使用している

・ 克服(治癒)可能と訴えたいため



● 受講者の声 ● ～受講後アンケートより抜粋～

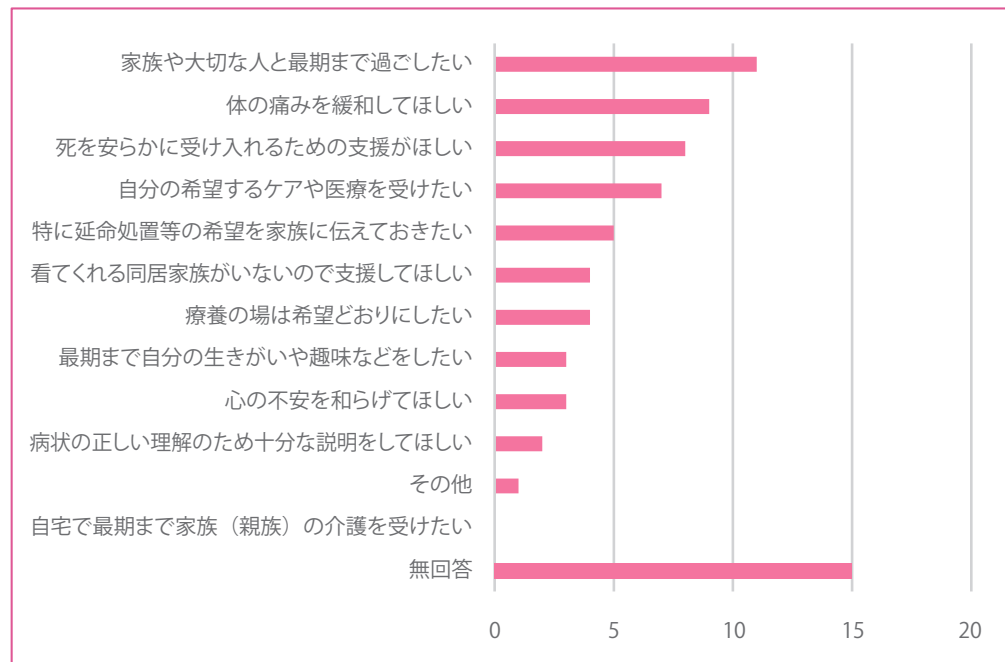
- 褥瘡の治療の判断根拠がよくわかった。
- 苦手意識をなくせそう。楽しかった。やってみようという気になった。
- 実践的な講義に加えて、実際に手を動かしながら、考えたり体験できたことは貴重な経験となった。

■ 地域包括ケア 府民公開講座 開催報告

令和5年1月24日(火) 京都府立京都学・歴史館にて、写真家・ジャーナリスト 國森 康弘 氏を講師に迎え「写真講演:いのちをつなぐ～地域でのあたたかな看取り、そして旅立ち」と題した府民公開講座を、京都地域包括ケア推進機構と共催で開催し、145名の府民の方が参加されました。滋賀県東近江市の農村地帯や東日本大震災で被害を受けた地域など、國森氏が関わられた数々のご家族たちのかけがえのない「看取り」と、それを支える「地域丸ごとケア」について写真とともにご講演いただきました。

講演終了後のアンケートでは、72名の方より回答をいただく事ができました。参加者の性別や年代別、「ACP や人生会議の認知度」「ご自身が死を意識した時から最期の時を迎えるまでに望まれること」の結果と合わせて、人生の最終段階における医療についてのご意見の一部を紹介いたします。

● ご自身が死を意識したときから最期の時を迎えるまでに望まれること ●



● 人生の最終段階における医療についてのご意見 ●

- 自宅で最期を迎えたい。健康と安全に気を付けて、周囲の手を煩わせることを極力少なくし、心の平安を保ちながら、最後の教育として自分が年老いていく姿を子や孫に見せてやろうと思っています。そのために必要なのは、地域の医療と介護を担って下さる人材です。若い方の力が必要な場で発揮されるように、協力し応援していきたい。(70代女性)
- 人生会議はつらい場、話にもなるので難しいと思う。何かきっかけがあればと思う。専門職は研修等で ACP など学習しているが、それでも親しい人や家族には話にくい、どう話せばよいかわからないなあと思っています。(50代女性)
- 人は一人では生きていけないことを、身を持って感じました。若い方々の力はすでい。多くの方々が、立派に育ってほしい。自分も高齢ですが、安心して最期を迎えたい。(80代女性)

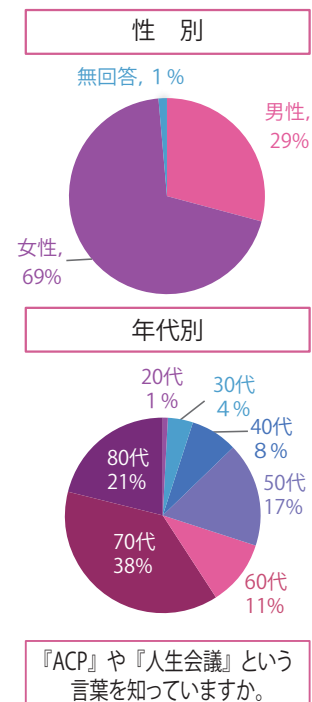
● 本日の講演で最も印象に残ったもの ●

- 命のバトン100万代続いている。祖父母・父母を思い、今の私がいることがありがたい。子どもにも伝えてゆきたいと思います。(70代女性)
- 看取りは「死」を受け入れる場でありながらも、その方の「人生」をみんなで振り返る時間で、命のバトンに感謝して次に繋げていけるよう前を向いて歩き始める一歩であると思いました。身近な人の死は辛いですが、みんなで看取することは心の支えになると感じます。(20代女性)
- ALS の方を若い学生さんたちが献身的に支えられていた。自分にも今後何ができるんだろうと考えさせられました。(40代男性)
- 「地域包括ケア」住み慣れた地域で、その人らしい尊厳を守りながら、看取りからの学び、教えがあること、命のバトンリレーが日々繰り広げられていることを、この研修で再確認できました。(50代女性)



【講師】
写真家・ジャーナリスト
國森 康弘 氏

＜プロフィール＞
京都大学大学院経済学研究科修士号、英カーディフ大ジャーナリズム学部修士号。新聞記者を経てイラク戦争を機に独立。紛争地や経済困窮地域を回り、国内では戦争体験者や野宿労働者、東日本大震災被災者たちの取材を重ねてきた。命の有限性と継承性がテーマ。近年では看取り、在宅医療、地域包括ケアの撮影にも力を入れている。



■ 京都在宅医療塾「排泄支援」(参集型開催) 開催報告



オンデマンド配信中！ 配信期間：3月31日(金) まで

右記の QR 画像からお申込み受付中

令和5年1月14日(土)、日本泌尿器科学会 専門医 / 井上医院 院長 井上 亘 氏と、排泄用具の情報館 むつき庵 代表 浜田 きよ子 氏を講師に迎え、井上氏には「尿路管理について～薬剤・カテーテル・自己導尿など～」、浜田氏には「そのおむつ待って！快適な排泄を目指して」と題して研修会を開催し、医師12名、多職種22名にご参加いただきました。



日本泌尿器科学会 専門医
井上医院 院長
井上 亘 氏

泌尿器科医から一言

ベシケア
トビエース(デトルシール)
ステープラ(ウリス)
ネオキシテープ
パップフォ(ポラキス)と比べると
効果は→↑
副作用は→↓
ブラダロン・ロキシソンの使い方
過活動膀胱という病名を忘れず！

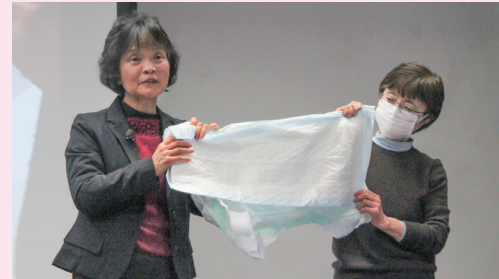
望ましくない留置カテーテル

- ・尿量の管理だけが目的
- ・おむつ・パッド・コンドーム式集尿器は利用可能
- ・自己導尿が可能
- ・看護師・介護士のケアの軽減のための留置
- ・家族が介護力がなく、やむを得ない場合は留置もありえるが、上記の方法でできないかを確認して行うべきである

参加者の医師からは、「内服薬の説明がわかりやすい」「論点の整理がすばらしかった」「もう少し時間をとって話が聞きたい」、多職種からは、「在宅でのエピソード、体験談を交えての講義だったのでわかりやすかった」「患者さんの QOL を第一に考えて関わっておられることが伝わってきた」「カテーテルフリーの介入、自己導尿も選択できるよう介入していきたい」との感想をいただきました。



排泄用具の情報館 むつき庵 代表
浜田 きよ子 氏



さまざまなおむつを紹介していただきました。

おむつは慎重に選んで適切に使う

- ◆皮膚への負担(スキントラブルが起こりやすい)
- ◆座っている姿勢が崩れやすくなる
- ◆動きにくい(寝返りがしにくい)
- ◆臭いの問題
- ◆違和感
- ◆自尊心を損うことがある
- ◆ゴミの問題



■ 第3回 総合診療力向上講座(Web 講習会) 開催報告



オンデマンド配信中！ 配信期間：5月15日(月) まで

右記の QR 画像からお申込み受付中



早期緩和ケア
大津秀一クリニック 院長
大津 秀一 氏

令和4年2022年11月26日(土)、早期緩和ケア大津秀一クリニック 院長 大津 秀一 氏を講師に迎え「外来・在宅でできる緩和ケア」と題した研修会を開催し、医師114名にご参加いただきました。

● 受講者の声 ● ～受講後アンケートより抜粋～

- オピオイドの理解、知識が深まった。
- 貼付薬を初期から過量に注意しながら使ってみたい。
- 往診医療をメインに始めたばかりなので、新しい薬剤など知らなかったことがわかり、勉強になった。

強オピオイドは増えている

- ・モルヒネ
- ・フェンタニル貼付薬
- ・オキシシドン

- ・メサドン
- ・タペンタドール
- ・ヒドロモルフォン



フェントス0.5mgから開始可能

・＜がん疼痛＞
本剤貼付前にオピオイド鎮痛剤を使用していない場合、0.5mgより開始する。

・tmax(hr) 20.1±6.1
・剥離後のt1/2 (hr) 27.09±14.14